ほんにかえるプロジェクト　会報　　2016年1月創刊

かえるのうた

第18号　　2019・10月

画：　E･N

ほんにかえるプロジェクト発行
汪楠責任編集

むら雲に中秋の月おぼろなり
　わが寂寥をしばし隠せし

代表　田中伸彦

　秋という季節は、去り逝く夏のうしろからいつの間にか忍び寄り、何処となく心細さを感じさせるものです。
　昔、ある詩人が書いたように、
“ふと、遠き友に　長き手紙を書きたし夕べ・・・”
　秋には手紙がよく似合うと私には思われます。
　夜、収監されている人からの手紙を開いて、綴られた文の中から、滲み出る孤独感や真情を感じさせる言葉を眼にするにつけ、そこから未だ会った事も、言葉も交わしたことのない人の、おぼろげな像が浮かんで来ます。
言霊というものがあるようですが、書き留められたり、語られたりする言葉のひとつひとつが、それを受け止める人の心の何処かで共鳴して、新たな言葉が生まれ出る。多分人間という生き物だけが感じる不思議な現象なのでしょうか？
“ほんにかえるプロジェクト”のつながりで時おり届く手紙は、その内容がとても重く込められた言葉の真摯さ、熱さにたじろぐことも少なくありません。しかしどんな環境の中にあっても、言葉をやりとりする関係が築かれ、継続していく事が出来るなら、互いの存在の尊厳を認め合い、自らの思いを表現する機会を共有する事が可能なのではないでしょうか。
　私は日々路上で暮らす人々や、生きにくい思いを抱いている人たちと関わりながら生活しています。顔を合わせて会話を交わす事も、短い手紙を送ったりする事もあります。
言葉をやりとりする事で、信頼や温もりを分かち合えるのではないかと思っています。
　手紙にこめた自らの真情を受け止めてくれる存在がなければ、書かれた言葉や思いは行き場を失い、いつまでも行き着く当てのない旅を続けるしかありません。誰でもが手紙のやりとりをする機会が持てるわけではありませんが、“ほんにかえるプロジェクト”で関わり合えた人たちとはそれが可能だと思います。私がどこまで、収監されている人たちの思いを引き受け、その思いに応える事が出来るのか自信がありませんが、これからも手紙のやりとりを続けていけたらと思っています。
初秋の夕暮れ時、郵便受けにひっそりと白い封筒が入れられ言葉たちがじっと息をひそめている。秋の夜は長く静かです。

上　申　書

○被害者について

私は十数件の事件で起訴され、その他起訴されなかった事件も多くあり、多くの方に莫大な損害を与えてきました。私にどんな事情があったにしろ何の非もない被害者に無断で盗・詐取した事は事実で、法律うんぬん以前に、こういうしてはいけなかったことをしてしまった事については真に悪いと思っており、深く反省すると共にお詫びしたいと思っています。

誤解があった様なので改めて言わせて頂きますと、私は今までの公判で述べた「なぜ犯行に至ったか」という点について、まったく反省してなくて、自分の罪を正当化している様に誤解されたことは大変不本意で、私は被害者に対して反省と謝罪の気持ちを大変強く持っており、自分自身のやった犯行、罪を償う意味でも自分自身のことを全てさらけ出し、犯行に至った原因を見付けることで二度と同じ様な被害者を作らない様にする為と自分自身の更生と社会復帰の為になると思い、犯行当時の気持ちなどを率直に述べたものであり、もう加害者になりたくない、犯罪者になりたくないという考えのもとで真実を述べ、分析するのが目的で、自分の行為を正当化するような他意はまったくありませんでしたことを改めて申し上げます。

そして被害者に対しては弁償のことも含めて、どうすれば与えてしまった損害を小さくし、犯人である私に対しての怒りを静められるかについては、これから始まる長い長い刑務所生活の中で真剣に考え、そして行動で償えるように努めたいと思っています。約束させて下さい。

○反省する事について

まず言いたいのは、今のような塀の中に出入りする様な生活を望んでいないこと、そして世の中の誰よりも自分自身の反省更生と普通の生活を望むのは私自身であります。しかし今までの経歴で分かる様に反省と言いながら結局すぐにくり返してしまう事で論告の中でも本当の反省をしていないと言われましたが、でも私としては嘘ではなく、その時その時全て本当に反省していたと思います。しかし、それでも犯行に走ったりしている現実がある。そのなぜという原因が自分に分からなくて、本当にもう犯行を繰り返したくないという考えがありますから、今度は私流の反省態様でまず全て話すことから始め、一切の嘘を付かないことで素の自分をさらけ出し、職務上の経験と人生の経験で私の本当のいけない所、問題点を分析・発見してもらいたかった。もちろん私自身もその発見に努力しております。第一歩は真実を語ること、第二歩は問題点を見つけること、そして第三歩はこれからに予定されて

いる刑務所生活の中で償いながら発見した問題点を治すことに取り組む事が、私が自身の更生のために考えた自己流の反省のスタイルであり、自身に課する更生プログラムでもあります。

犯行をくり返すことで周りに信頼されなくなるのも辛いことですが、それで自己嫌悪に陥いり、自分がどんどんダメになっていくのも大変辛い事であるので、この悪循環をたちきる為にも私は犯罪をやめたいと考えております。ドロボーしてドロボーと呼ばれるよりまじめな人間になり、汪という一人の真の人間になりたいのです。

裁判官からの質問のときに、もっと悪いような愉快犯的なことをやりたい、やるつもりと答えていましたが、それは自己の存在感を確認する為に犯行に至ったと説明していた時の、一種の見栄・強がりであり、本当にやろうとしていたわけではない。だから３６回目の公判のときに、具体的に何をやりたかったのかと聞かれても答えられなかったわけです。

もう一度私流の反省の仕方の話に戻りますが、普通にごめんなさいと反省しても自分の場合では効力がなく、全てさらけ出し、問題点を見つけ直す必要があることを私は今まで述べてきており、今までの検事は表面的にしても理解してくれたのでバカ正直な調書になったわけですが、それが最終論告直前という大事な時期にまたも検事が変わり、これで６人目か７人目になりますが、新検事は公判前に一度も私と口を聞いたことが無く書類のみで私という人間の人物像を構成させようとした為に、被告人の私が反省していないと誤解する様になったように思われます。

ドロボーとは言え、私は知能犯ですし、前科もあり、どういう供述が自分に不利であるかは知っています。

犯罪者特有の顕示欲があったとは言え、今までのようなバカ正直な供述は他にないと思います。これは全て私流の反省であることをどうか評価して頂きたいのです。

ごめんなさい、もうしません的な事を言わないのは反省していない為ではなく、むしろ反省していますから、とった言動である。というのは、私は己の罪の重さを知っているからです。計画的･職業的･悪質的そして継続的に、悪いと知りながら、つまり確信犯でもあるのに、逮捕されたとたんに、逮捕されたからごめんなさい、もうしませんと言うのはあんまりにも安易的・表面的である様に思えますから、被害者のことを考え、そして自身がもう加害者にならない様にする為にと考えた時、私は真の反省とはもっと違った形のものであると考えました。

しかし具体的にどういう形であるべきなのかまだ分かっていません。弁償は当然のことですが、それだけでは不足と思うし、まして億単位の被害をこの上更生してまじめな人間になろうとしている自分にどうやって弁償すると

いうのかも問題で、だから弁償のことも含めて、私は一審の判決が重くてもそのまま刑を服すると決めていました。これがまず私にできる被害感情をやわらぐ方法・償いの一つと思っていたからです。量刑不当で控訴するのは、被害者の感情を考えた上で一番してはいけないことであると思っていました。

しかし、１５年の求刑でこの気持ちもゆれはじめました。重すぎるからです。いくら人様のモノを盗った犯人で罪は重いと自覚していたとしても、１５年は殺人でさえ求刑されないこともある長期刑で、まず外国人だからという被差別感を感じたと共に、巧妙ゆえに重くすべきという論告の論理上の矛盾を感じました。巧妙イコール知能犯で､その反対に位置するのは暴力犯で、同じ犯罪でも論告の論理でいくとむしろ単純にマネーマネーとナイフなどの武器で暴力的に被害者から奪い取った方が良かったように感じました。

同じ財産犯でも暴力を避け、人に危害を与えないことをスマートさであると考えていたし、ポリシーも持っていましたが、それが殺人・強盗よりも悪質と見られた論告の趣旨に私はショックを受けました。高額でも人間の命より貴いことはないと考えていました。

先日、我が子をスタンガンまで駆使してせっかん死させた両親の刑は５年か６年というニュースを聞きました。我が子を殺した人より私は三倍も罪が重いと言われたことにおどろきました。人間的に私は３倍も悪いというのか。

現代、殺人を犯した人でも１５年も求刑されなかった例が多くあります。

外国人だからドロボーでも殺人と同等・以上に罪が重いというのは、先進国家・法治国家と自認する国のすることではないと思いました。１５年と求刑した検察側が国家権力を代表しているというのなら、外国人だから、つまり人種を重刑の根拠にするのは先進国家ではなく、ナチス国家であり、私の愛する日本の姿ではないと思います。そして法律を代表して番人を代表しているのなら、殺人よりドロボーの方が刑が重いというのは公正性に欠けることであり、平等さを守れない事は法治国家としては自滅行為であると思います。私がやったドロボーと同じ、してはいけないことと思いました。

論告の中で「同種犯罪者集団に対してその犯罪の重大さを知らしめる」と書いてあったが、巧妙であるゆえの重刑を知れわたると、巧妙ゆえ比較的安全な手口よりも暴力的な手口を増加させてしまう様に思います。

同じお金目的なら、詐欺などの巧妙的な手口よりも強盗のほうが手っ取り早いことを知っています。ヤンは初め、ナイフと催涙スプレーを所持していました。これは犯行中に被害者などに発見されたとき、現逮にならない為の逃走に役立つ道具である。私も現行犯で逮捕されたくない。それでも持つことに反対し、放棄させ、万が一のときも

抵抗してはいけないと諭したのは被害者の身体にまで被害を加えたくない気持ちからです。それが強盗のような暴力を使わず、泥棒に徹することをポリシーにすることに至ったわけです。

それゆえ巧妙になり、それゆえ重い刑になった事に対して、私の頭の中ではすごく混乱しています。巧妙的なのも暴力的なのもイケないである事は十分に分かっていますが、ショックです。

中国時代の自分は優秀な学生で非行と無縁な少年でした。それがどういうわけか、来日して非行に走るようになり、犯罪者になりました。日本という社会が私を差別し、犯罪者にさせたというのは責任転嫁の様に聞こえますが、少なくとも生活環境が私を変えた部分があり、そしてかなり大きいように思う。この事自体も主張したい事ですが、初めから金銭目的で密入国し、犯罪を犯した一部の中国福建省出身の様な人と違い、私は普通に生きる為に来日し、それから変質したのであるところを明察し、一般の外国人犯罪と分別して裁いて頂きたい。

ヤンは私より１２才も年上で犯行当時かなり意見されていたから、その意見を聞かなきゃいけなかった立場にあった自分は首魁などとは言えない。ましては預金下ろしという犯罪をやめたくてもやめる自由がなかったのに、そして全ての事件でもっと下ろせと言われ続けてきたことからも、私が首魁ではないことを証明することになります。

そして、ヤンは裏社会に長年生きてきた古参の人物です。そのヤンに対して不利になる様な証言をする事自体はとても勇気のいることで、ヤンやヤンの知人からの仕返しは必至で、これからは私と私の家族もそれらにおびえながら生活しなければなりません。現に姉夫婦はヤンらに知られた草加の持ち家をローンの支払いも終わっていないというのに離れて、別地で新たに家を賃貸して生活しています。これも私が犯罪を犯したことでもたらせた被害の内の一つで反省し責任をとるべきことですが、ここまでしても捜査に協力し、証言台に立ったことを評価して頂きたい。ここで再び私自身の話に戻りますが、中国近代文学の中で「阿Q正伝」というタイトルの、魯迅という方の名著があります。この小説が私に影響を与えたのか、それとも偶然の一致か、とにかくその主人公で「阿Q」という人物像が今の自分とあんまり似ているように思えるから、この阿Qという架空人物を例えにして、自分の心境などを弁護士先生に語り説明してきました。私を知ってもらう為にここでも引用させてください。

１９３０か４０年代の話で、阿Qという日雇いというより乞食に近い主人公がいた。皮ふ病で見た目が悪いことと生まれが卑しいことでいじめられていた。そして革命の時代が来た。来る直前で旧・既存権力がまだ健在のうちに革命のマネゴトをしたカドで捕まり、

革命という本人も理解できていない新しい事柄に何かを感じ、マネしてみただけで、それが死刑にされてしまうという物語です。この小説は小学生のうちに読まされたもので話の内容もハッキリ覚えているわけでも完全に理解できたわけでもないが、でもその阿Qの心境などがとっても今の自分のと似ているから、語らずにはいられなくて、できればその小説を読んで頂けると私の話ももっと分かりやすく感じると思います。

中国にいるときの我が家は裕福でした。しかし来日してからはもっとも貧しい層に分類される環境でした。学校に行きたくてもまず私達に教科書がありませんでした。着ていくＹシャツが１枚のみで替えもなかった。ストライブ入りのくつ下の縞の色も太さもピッタリ合うものをさがすのが一苦労で、どれでも親指あたりは切れて穴があいていた。学生服は一着のみで自宅で洗いアイロン掛けして、クリーニングに出した事は一度もなかったし、冬・夏の別もなかった。冬夏一枚ずつのＹシャツを冬に夏用の半袖、夏に冬用の長袖を着ていた。こっけいにうつったことでしょう。いじめにも遭うわけです。これは我が家のことだけではない。同じ頃に来日した孤児家族はどこも一緒だった。念のために言いますが、私は今年で３０才で、この話も終戦直後の時代の話ではなく、正確に言うと昭和６１、６２年のことです。自分らがイメージした日本との差があまりにも大きかった。この貧しい中学時代が小説の中の乞食生活を連想させます。乞食である阿Qは本当は自分はもっと由緒正しい家柄の生まれと信じ、周りにも言いふらしていたストーリーの部分が、中国にいたときは自分の家も裕福で、日本でのようなこんなヒドイ生活ではなかったと主張するのも一致します。物語の中で同じ乞食でも見た目が良かった人物が登場します。その乞食は同じ乞食でも見た目の悪い皮ふ病にかかっていた阿Qに対して優越感を持っており、阿Qいじめに加勢する場面がある。この部分は同じ黄色人種で近いとなり同士のアジア人同士の日本人の人間像とその乞食仲間がダブって見えます。多くの日本人は自分は中国人より優れていると思っている様で、そこから生まれる優越感が差別させることに至ったたり、中学時代に遭ったいじめもこういう日本人の感情から生まれたものであり、いじめる本人になったり、いじめられっ子の日本人も、こと中国人に対しては優越感を持ち、いじめに参加し、幇助する役割をはたしてしまう日本人の子が多かった。そして、いじめはよくない、かわいそうだと思う一見善良的な意見も、その背景にあるのは同じ優越感から生まれ同情という仮面の、同じ差別でしかないことが多い。これは私の被害妄想によるものではなく、全て現実に起きたことです。同情され親切にされた事をも素直にあ

りがたく受けられない卑しい人間と思われるのも嫌なので、改めて言いますが、本当に同じ人間として、平等な感覚から来る親切をも私は肌身に感じることができ、ありがたく思える人、日本人がいるから、私は日本が好きであると再三にわたって言っているわけであります。けっして親切を全て偽善に見えてしまうような人間ではない。その優越感、つまり中国人に対しての差別がまた日本で一般常識化しており、聖徳太子の十七条の憲法にも出てくる日本人がもっとも重要視する“和”もまたここではマイナスの働きをし、いじめに参加しない子がいじめに遭ってしまうという日本特有かもしれない陰湿さが、中国人より日本人が上、優秀である、中国人は差別すべき存在といった社会現象を生み出し、増加させています。そして私のような立場にいる外国人、とくにアジア系に被差別感を持たせています。ついでに言うと、外国人と外人ではニュアンス的な違いが日本語・日本人の中にある様ですし、同じ他国籍者でも欧米人に対してのと、それ以外、つまり日本人は自分より劣っていると思っている白人以外の人種・国の人に対しての態度が違うばかりか、ここでも外国人と外人を使い分けたりすることが多いように思います。外人、まさに現代の村八分であり、無条件でその村八分に遭わされてきた事が私が直面してきた、しかもその中で生きなければならなかった生活環境、日本という社会でした。そして小説に戻ると、なぜ乞食に生まれてしまったのか、なぜ乞食だからといっていじめに遭わなきゃならないのかに対しての阿Qの持つ怒り、又は理解できないものが、私が持つ、なぜいじめにあうこの日本に来たのか、中国人だから差別されることに対しての怒り、及びその他自分では理解できない現象なども見事に一致し、しかも阿Qをいじめる側、私を差別する側に対しては、私も阿Qも不平不満を言えない弱い立場にあり、その不平不満を言うだけの知識がないこと、つまり理論武装できないこと、全ての面で無力に立ち向かうすべを持たない点も一致する。さらに私は阿Qと同じ言動をとっている。阿Qは殴られながらも心の中で毒づき、決して謝らないことで精神勝者になることで自分を慰めていた。同じことを私も実践してきました。阿Qは持つ怒りとレジスタンスと無知ゆえの好奇心などから革命革命と意味も分からずに口にし、そのマネゴトで壮絶な死を目指していたのか、とにかく最後は死刑にされる結末でした。現実の私ももやもやとした社会に対しての不満、差別されたことに対しての反抗心から犯罪に走り、精神勝者を目指すあまりに心にもない強がりを言ってみたりして、死刑まではいかないが、最高刑の１５年を求刑されました。小説の主人公で架空な人物なのに私はその阿Qの生まれ変わり、とさえ思いました。あんまりにも何か

ら何まで似ており、悲しい結末まで一緒では自虐的な私でも喜べません。

阿Q正伝の話は以上ですが、中学生つまり来日当時の話をもう少しします。

義務教育にもかかわらず、途中転入の為か、私らには自分の教科書もなかった。学校にある古くて表紙も違う教科書を、それも数十人で使い回していた。私らというのは帰国残留孤児２・３世で、日本語学級の生徒を指していますが、日本人生徒があたりまえのように大小一本ずつ持つフルートでさえ、３、４０人もいる学級全員で数本のお古を使い回していた。しかもつけ加えると、日本人は小学生から笛を覚えており、ランドセルを背負った小学生が帰宅途中に笛を吹く光景をよく見ますから、できて当然のように思えても、私らにとっては見るのも初めてのものであり、覚えるのに大変苦労することで、授業中に変な音を出せないから、ほとんどの子は覚えられなかった。

ここでこんな苦労話を持ち出したのは日本人の普通の生徒で給食費も払えて学習用具に困らなかった子でも勉強せずグレた子がいるのに、私らのようにノート１冊満足に買えなかった子が学習意欲なんかむしろ無い方が普通で、ましてさらに差別され、いじめられ、語学の壁もある環境の中に居させられた私らがグレたのは当然で、私の姉のようにまじめな人生コースを歩むことになる方が異端で、並ではない努力と忍耐を払ったことに社会は気付きもせず、もちろんホメもしません。

苦境の中にいることをアピールする為にグレた私らのような子だけ非難し、犯罪を犯した部分のみ取り上げて犯罪者として裁かれてきた事に私は大きな怒りを感じています。これに関連して、この紙面上でも日本に対して大変な不平不満を持っていると受け止められがちですが、私としてはそういう意思はなく、１４、１５才で成長の過程で初めて環境や社会を意識し始める年頃のときに、たまたま私は日本という地理上の位置に居たから少年時代に感じ続けてきた社会の不条理が全て日本社会に対してのものになっただけで、日本社会というより、３０才になった今も、大人の社会という感覚で捉えています。

勉強すべき年頃のときに勉強できる環境を与えられていなかったことが一番最初に私を普通の人生コースからはずさせた元で、そこからどんどん普通の人生からズレさせていた様に思います。

日本人は自分を白人以下、非白人以上の所に位置付けさせた事で中国人を差別する風習を生み、この社会病理？誤った価値観が多くのマイナスな面を生み出しています。ヤクザなどの暴力団組織に在日朝韓国人の比率が高いと聞きます。差別されたことが原因で、私らの中から怒羅権を生み出させている。そして今度は同じ差別で日系ブラジル人をも犯罪に走らせ反社会的な組

織を作らせていると聞きます。責任転嫁ではなく、被害者に申し訳ない気持ちをこれからは一刻も忘れないつもりでいますし、やったことに対して反省し、もうしないと決めていますが、社会に上記の問題点もあり、大好きな国ゆえに言いました。

私のような過ちを犯してしまう若者を生み出させない社会になってもらいたく。

次、入管を出た直後の
気持ちを話します。

私は孤立感にとても弱い、今までの人生の中で私はどこに居ても周りの人と違う部分が出、どこにも同化することができないというのが私の最大の悩みです。中国にいるときは周りの家より裕福で、他の子はバナナを見たこともないのに、それをおやつにして変な目で見られた記憶がある。日本人の中で私は中国人、中国人の中にいるとあんまりにも日本人的な考え方をするから浮いた存在になる。暴走族にいながらバイクにずっと乗れなかったし、帰国者の中に居ても私は純の中国人。ヤクザのときもケンカが嫌いだったし、おまけに左利きである。とにかく変わり者と見られます。それがとてもコンプレックスになって、人よりも仲間意識に飢える所があり、寂しがり屋です。

それが入管を出所して更生しようとした時、まじめな友人がいないことに気付き、寂しさをまぎらせる為に友人と会おうとするとどの友人も悪い事をしている人間ばかりで、関わると犯罪に巻き込まれる危険があって、会ってはいけないという自制、会うだけで何もしないという誘惑の間に自分が迷っていまして、苦しんでいました。

家庭に対してのあこがれ。自分は両親の離婚などで家庭的に恵まれていませんでした。家出してから常に居場所がない事を苦にして来た。先に言ったどこにも同化できない悩みもあって、私は誰よりも我が家を欲しがっていました。つまり欠陥だらけの現存の家ではなく、二宮とその子と暮らすことで新しい我が家を作ろうと燃えていました。しかし出所して見ると女は私を捨て必要なのは子供の養育費だけという残酷な現実でした。犯罪をして塀の中に入り、我が子に不憫な思いをさせたくないというが更生する最大の理由としていたのに、我が子の幸せを考えてまじめになろうとしたのにという思いが私の中に強くあった。ここで一気にくずれ、私は世の中に必要とされていない、どこにも属することができない、我が子にもパパとして必要とされていない、父の家に居てはパチンコ屋に住み込めと出ていけと言われるし、姉は親切に心配してくれるが、旦那と子供もいる、その家に居候しているだけで我が家と感じられなかった。この居場所のなさでも私を落ち込ませて、その前の５年に近い施設生活ですっかり悪

くなっている精神面はさらにボロボロになり、死んでしまおうと考えるようになった。姉も証言していますが、私は正常なつもりで話した言葉でも周りの人に理解されなくなったことに自分自身も少しずつ気付きはじめ、自分はダメになっていく、こわれていくことを感じました。話すこともままならない状態でとても父の所以外の所で仕事できる状態ではなく、仕事さがしに協力してくれていた姉もあきらめてしまいました。でも心配してくれているだけは分かっていたから救いになっていた。

自殺願望がどんどん強まる中、中国に住む母に電話し、声を聞きたかった。何年ぶりか、涙を流した。お前に死なれる為にお前を生んだんじゃないと言われたことだけ強烈に記憶しています。儒教では親不孝の中でも親より子が先に死ぬのが最大の不孝である事を思い出しながら、でも私は、私にはどこにも居場所がない、必要とされない、誰も私のことを分かってくれないと訴えました。今度は母が死のうとする我が子を助けてあげることができないことを気付いたと泣き、乱れてしまった。二人の子、つまり姉と私と離れて暮らさなければならない母のことを思うとなぜか私の方が少し落ち着くことができ、母を慰め通話を終了させた。でも自殺願望は弱まらない。しかし同時に自殺はインテリがするようなもので自分のような中学校も出てない者がするものではないという思いもありました。そして未練がましく我が子の姿を見に行ったりしましたが、父親がいなくても元気に育つことを見せつけられたような思いをした。寂しそうにして欲しかったのか、健康を願うのに元気であって欲しくなかった様な複雑な気持ちで居ましたから、子の元気な姿に逆にショックを受け、さらに落ち込みました。

自己治療として酒を飲んでみました。大好きな酒を。どういう効果があったか分からないが、酔っていると私を見る姉の目は普通じゃない、どこかおかしい、姉の旦那のこのときの反応も普段以上にやさしい。それで私は酒を飲まなくなった。次はクスリ。エックスタシー・レクロ・大麻・揺頭丸・抗うつ剤などを全て服用してみた。でも、より自己嫌悪を強くしただけでしたから、自殺を実行する程気持ちが高揚するときが波状に来ることが分かっていたので、そのときに落ちつかせるための大麻だけ常用し、他はやめました。自殺願望が強かったせいか、禁断症状さえ感じませんでした。でも苦しいことに変わりはない。

この苦しさから脱け出させてくれたのは、更生のためには絶対に交際を再開してはいけないと決めていた友人との関わり、それが結果的には自分を犯罪に走らせてしまったが、あの苦しさから脱出させえる唯一の手段でしたと自分も思っています。友人と会い、私

に仲間がいる、同化する所がある、必要とされている居場所がある、これらを全てクリアしたのは皮肉にも犯罪集団に属することでした。これが自分を犯行に走らせた要因で、又、ここをどうクリアするのかで更生できるかどうかがかかっています。

更生方法。刑務所で昔できなかった勉強をし、知識を付けて社会に対してのレジスタンスを、本を書くことで表現し、発散させていくこと。この本を書くことで新しい価値観を持ち、新しい交流対象を作ることで仲間を作り直すこと、と同化。この法廷を通じて多くの人に注目され心配されていることを感じることができ、必要とされていると感じることもできましたが、塀の中で不自由な生活を強いられたことで自分に多くのやりたいことがあるのに気付かせてくれた。もちろん犯罪以外のことですが。それらをやるためにも私が必要で、つまり私自身が私自身を必要としていることに気付きました。

家については私に母がいます。十数年も離れ、これからも離れ離れになるけど、出所したら一緒に暮し、今までの不孝を償い、帰れる家ができれば、私の人生だって変われる、更生できると自分は確信しています。この上今までの私を知る姉や周りの人の意見を聞き、自分を直していきたいと思っています。

本当に長くなってしまいましたが、被害者に謝罪したい気持ちは十分あるのにうまく文章にすることができなくて、今も作成中ですが、結審に間に合わなくて裁判官に自分の具体的な謝罪の言葉を見せることができなくなってしまいましたが、もともと公判目的のものと思っていないから今になっても書き上げていないのですが、必ず誠意のある謝罪の気持ちを被害者に伝えます。そして弁済についてもあんまり高額な為、簡単に約束できませんが、一所懸命考えており、家族と相談しできるだけ弁済できるように努めます。
多大な被害を与え本当に申し訳なく思っており、深く反省しています。

自分の罪の重さを知っているつもりでしたが、１５年の求刑はあんまり重いように思います。被害者のことを考えて私は寛大な処分よりも、外国人だからといった人種による誤審だけは無い様に、差別のない、公平な処分を望みます。よろしく申し上げます。

判決はこれからですが、求刑１５年された事に私はすでに不服を感じ、判決を待たずに求刑に対して控訴したい気持ちです。つまり判決以前に量刑不当を感じました。求刑に対して弁論要旨を出すことでしか反論できない今の制度に欠陥があるように思います。求刑され、次回の公判に弁論を提出し、被告はその間のわずかな時間の中でこのような反論する文書を書き上げなければならないというのはあんまり被告

に不利であるように思います。私は逮捕されてから２年は経ちました。つまり２年間もの間に検察側が私をどう責めるかを計画し、まとめあげたのが論告で、それに対して被告人の私はわずか１回の公判の間に弁解する時間を与えられただけで、このことにも不服であります。

判決に向け、この上申書で自己の考えを書く事にあたって、上申書というより、自己の死を予感し、世に言い残したいことをまとめている様で、まるで自分の遺言を書いている様な心境でした。他に言い残したい事があるとすれば、それはまずずっと心配しつづけてくれた姉と姉の旦那に感謝したい。本当によく支えてくれました。

次は多くのトラウマを遺してくれた中学時代に唯一暖かくそして厳しく接してくれ、唯一信頼できる大人でもある葛西中学校の岩田先生に、例え私は今犯罪者になっていてもあなたがしてくれた事は私を救い、そしてけっして無駄ではないことと感謝の気持ちを伝えたい。同じ先生ですでに天国に召された斎藤先生にも感謝しており、そして失望させた事も詫びたい。入管にいる間も支えてくれた衣川と石井両先生にも感謝したい。そして不本意ながらも犯罪に巻き込み共犯にさせてしまった友人の小林、犯罪を通じて知り合ったとは言え、佐々木や国井さんに代表される日本人の共犯達に対して、仲間扱いしてくれたことが私の命を救ってくれたと考えており、心の支えにこれからもしていきたいと思っています。お互い更生しても仲間でありたいし、必ず更生できるとも確信しています。

このように私の周りに私に親切で差別しない日本人がいるから私は日本が好きであるし、この方達のことを忘れずに居れば必ず私もまじめな人間に生まれ変われると今度は私自身が確信するようになりました。皆様の迷惑にならず失望させない為にも、私は犯罪をやめ、正業に就き、偉い中国人汪楠になる事を決心しました。

なお裁判長と裁判官に対しては公判が長引き、貴重な時間をとらせた事と、一部の質問に対して強がってみたり反抗的な言動をとった事に対してお詫び致します。

検察官の質問に対して興奮し反抗した事についてもこの場を借りお詫び致します。

申し訳ございませんでした。

判決は私の人生を決めるものでもあり、反省し更生しようと決心した私に最後のチャンスを与える意味でも人種差別のない、私、汪楠個人として犯した罪だけに対しての公正な裁きを再度お願い申し上げます。

裁判長及び裁判官様

平成１４年８月２日

汪　楠

日本の生活と共にある和菓子

その歴史　連載第３回　作田ゆう子

【南蛮貿易・中国貿易
・薩摩の琉球貿易と砂糖】

戦国時代の末期、すなわち 16 世紀の末の1493年(1492年説あり)には、ポルトガルから鉄砲が日本に入ってきました。さらに、1495年には、スペイン人のザビエルによって、キリスト教も伝えられました。こういった文物とともに伝来したのが、いわゆる南蛮菓子です。おもなものに、金平糖、有平糖、カステラ、ボウロなどがあります。

金平糖や有平糖は、千利休のはじめた侘茶から発展した茶道につかう干菓子として定着していきます。また、カステラは、カステラとして食べられただけではありません。明治時代になってから、今川焼にカステラ生地を用いて、たい焼きが生まれました。さらに、どら焼きも、平安末期に武蔵坊弁慶が作ったものは、小麦のおやきの皮でした。

ところが、明治に入って、どら焼きにカステラ生地を使うようになって発展するなど、カステラは、和菓子の世界に大きな影響を与えています。
もうひとつ、カステラなどの南蛮菓子は、和菓子に鶏卵を使う工夫を伝えた点でも、大きく評価できるのです。
そして、この時期には、庶民のための餅菓子も作られ始めました。

たとえば、天正三年創業の、伊勢の二軒茶屋餅。伊勢神宮は、２０年に一度の式年遷宮をおこなって、社殿を建て替えるため、常に物流のセンターでもありました。その大湊で作られたのが、二軒茶屋餅です。平たい形にまとめた餡入りの餅に、黄な粉をまぶして風味をきかせています。最初の二軒茶屋餅は黒砂糖の餡でしたが、貴族以外でもなく、上流町民でもない庶民が口にした和菓子としては、先駆け的存在ではないかと思われます。

こういった和菓子の流れは、京都の寺社の門前町の茶屋菓子であるとか、街道筋の茶屋の菓子にみられます。あるいは、働く庶民のおやつとしての大福もちなどの発展につながる系統です。

さて、江戸時代のオランダとの南蛮貿易や中国との貿易船は、砂糖を船倉に積みこんで日本にやってきたため、日本の砂糖の輸入量は飛躍的に伸びました。１７世紀末から１８世紀にかけての元禄文化期には、京菓子が発展していきます。

【京菓子の発展―献上菓子】

元禄時代には、京都の高級文化サロンで茶道の礎が完成しました。表千家・裏千家・武者小路千家が、千家三代の宗旦から分かれて隆盛していったのを、宗旦流の茶と呼びます。

こうして、武家や公家、上流の町民階級に、茶の湯が浸透していったのです。

そこでは、庶民の手には入らない高級品として、砂糖が使われる和菓子が発展していきました。とくに濃茶手前に使う、主菓子が完成していきます。

主菓子とは、今でいう上生菓子が主流です。この「上」という字は、たんに優れているという意味ではありません。宮廷に献上する菓子という意味の「上」からとられています。

本当の上生菓子を調製することができたのは、最初は京都の菓子司と呼ばれる、宮中御用達の菓子舗だけでした。

たとえば、有名な『とらや』は、室町時代の創業で、戦国時代から御所の御用を務め、明治二年の東京遷都に伴って、はじめて関東に進出したのです。

【茶席の和菓子の完成】

では、現代のお茶席にも通じるお茶席のお菓子についてまとめておきます。

1 干菓子　薄茶とともにいただくもの。形から見て、落雁、有平糖、せんべい（利休のふの焼の流れ）、焼き八つ橋などの種類があります。

2 上生菓子　きんとん、こなし、練り切り、饅頭、羊羹の種類があります。上生菓子には、かならず菓銘があり、季節感や行事や古典などのテーマをあらわしています。

有名な花衣は、桜の花をかたどっています。唐衣は、在原業平の和歌『唐ころもきつつなれにし妻しあれば　はるばる来ぬる旅をしぞおもふ』から、カキツバタの花を表しています。菓銘のテーマは、そのお茶会のテーマであるのです。

このように、文化を楽しみながら、主と客が一期一会の時間を共にするお茶席の花が、和菓子であるといえましょう。

また、日持ちの面から種類を分けますと、

① 当日中に食べるのが良い朝生菓子（餅類、饅頭、きんとん）

② 日持ちがして風味も増す練り切り、日持ちのする羊羹のようにも分類が可能です。　（ **次号に続く**）

花衣

「ほっこりかえる」庄子佳代子

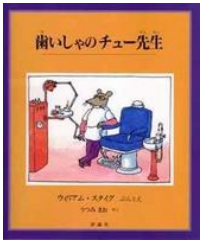
7月25日

「ともだちや」
内田倫太郎／作
降矢なな／絵
偕成社　1998

「えー、ともだちやです。
ともだちは　いりませんか。
さびしい　ひとは　いませんか。
ともだち　いちじかん　ひゃくえん。
ともだち　にじかん　にひゃくえん」
キツネのともだちやが　やってきました。
ウズラのお母さんがたのみました。
「あかちゃんが眠ったばかりなの…」
キツネは声をひそめました。
すると「こえがちっちゃいぞ。」「なにやだって」と、くま。「イチゴをいっしょにくってくれ」とたのみました。次はオオカミが「トランプのあいてをしてくれ」とたのみました。
トランプで遊んだ後、「あのう、おだいを…」と言うと、オオカミは激怒。「おまえは　ともだちから　かねを　とるのか。」キツネは気づきます。さびしかったキツネがほしかったのは、ほんとうのともだちだったと。

この絵本を読んでみようと思ったのは、最近話題の**「レンタルなにもしない人」**のことを新聞で読んだからでした。その人は**「1人で入りにくい店、ゲームの人数あわせ、花見の場所とりなど、ただ1人分の人間の存在だけが必要なシーンでご利用ください。国分寺駅からの交通費と飲食代だけ（かかれば）もらいます。ごく簡単なうけこたえ以外なんもできかねます。」**だそうです。「なにもしない人」は、親しい人に頼むのは気が重いときに声がかかるらしい。わかる気がします。

最初にこんな前振りをしたので、話題はそちらの方向に向かいました。
「最近、コンビニでたむろしているのは、ヤンキーみたいな若い子じゃなくて、年寄りよね」、「レンタルファミリーっていうのも流行っている」、「妻や娘のレンタルとかね」、「話を聞いてほしい人が多いのね」、「電話をすると30分は話している」、「山谷や釜ヶ崎では名前を隠している人も多い。本名のない関わりをしている」



9月12日

「歯いしゃのチュー先生」
ウィリアム・スタイグ/ぶんとえ　うつみまお/やく　評論社　1991

小さなネズミのチュー先生ご夫妻が、食べられそうな身の危険を感じながらも、歯の痛むかわいそうなキツネの治療をします。キツネは「生で、塩をふって…」と夢をふくらませます。最後は特効薬？を使って、無事食べられずにめでたし！大きな動物を治療するのに梯子やクレーンを使ったり、ユーモラスな絵が楽しい絵本です。スタイグが61歳から子どもの本を描くようになったことに興味が集まりました。今の子ども達はエンタメ読み物が大好きですが、このような絵本も、大切に読み継がれていってほしいと思いました。

誕生カードをお贈りしました

誕生カード担当　M.ロザリア綾

「主はあなたのために、御使いに命じてあなたの道のどこにおいても守らせてくださる。」（詩編 91 章 11 節）

暑さ厳しく、また局所的な大雨、台風の襲来などがあった大変な夏でしたね。皆様、いかがお過ごしでしたか。これからは涼しい秋、過ごしやすくなりますね。
夏の疲れが出ませんように！

7 月、8 月、9 月生まれの皆さんにカードを贈りました。下記の方々です。
お誕生日、おめでとうございます！！

7月生まれ　Y.T.さん、T.T.さん
8月生まれ　K.S.さん、H.Y.さん
K.E.さん、H.O.さん、H.U.さん
9月生まれ　K.I.さん、T.Y.さん、
Y.T.さん

使用済み切手（古）の　ゆくえ

総ての文通者にお願い!!

Gabrielaiko Ide s.c.q.

「NGO アフリカ友の会」はエイズ患者・栄養失調重症児・結核患者を支援しています。

使用済み切手を送付することで、活動を支援することができます。
5,000 枚の使用済み切手を換金すると約 1,800 円、これはタンザニアの看護学校の 1 年分の教科書代になります。その他、栄養補助食品や薬にも還品されます。切手は各地の 切手イベントにおいて、世界各国の切手収集家に購入されます。　「ほんにかえるプロジェクト」の会員は 200 名近くいます。年間で1万枚は溜まりそうです。一緒に支援活動に参加してみませんか？

皆さんにお願いするのは、切手を、周囲1cm切り取り可能な状態で封筒に貼っていただくことだけです。

お手紙を頂き、ありがとうございます。以前にも一度、戴いた事があって、返事もせずに、大変失礼致しました。お詫び申し上げます。

汪さんが自分の生活を立て直してるようで、なによりです。かなり前から破綻寸前と聞いていたので、本当に嬉しく思います。自分の生活もままならない状態で活動するのは無理があります。なにもできませんが、心の中で応援するしかありません。検索や購入が、庄子さんが分担して下さるそうですね。良かったです。汪さんのお手紙には、PJ が庄子さんのご参入によって、生き延びたと書いてありましたように、ここ一年ほど、活動がほぼ停止状態に陥って、こちらでも多くの人が心配しておりますし、一部が退会することにもなりました。私もあの状態では、とても頼み事ができないな、と考えて、正直、PJ が解散されるのを覚悟していましたが、庄子さんのおかげで、生きながらえたのですね(笑)感謝申し上げます。

刑務所の運動会のシーンを観ましたか。あれは去年 10 月のもので、TBS.の「報道特集」という番組が撮影したのですが、放送されたのは半年以上後の5月でした。確かに日本の無期刑は、世界中を見てもかなり厳しい現状です。

しかし、こんな状況でも、目の前の一日一日をしっかり元気に過ごしていかないと、自分たちにとっての未来はやって来ませんので、どんなに辛い現実でも、自分が招いたものだと自覚して、耐え忍ぶしかありません。官は建前の事は一応言ったり、やったりしてますが、実際更生の道を探ったり、作ったりするのは、自分達だけです。官にとって本当に大事なのは、一も二も管理です。更生させる事は、四も五も次です。なにしろ、刑務所は無くならないし、刑務官も失業することがないから、更生しない輩は、また入ればいいだけの事ですから、他人事です。

受刑者も生きやすくするため、人の顔色を窺ったり、陰で告げ口をしたり、良からぬ事を企んだりと、狡賢い事ばかり身に付けて、およそ本当の意味での「更生」とは程遠いような人間になって、いつか社会復帰をする。もちろん全員がそうだとは言いませんが、その辺の事情は、汪さんもよくご存じのはずです。「自分を保つ」事の大変さ大切さが経験したことがない人には、中々理解できないのでは？と思います

拝復

いつも暑く、忙しい中、本当にいろいろと面倒を見てもらい、心から嬉しく感謝しております。

今まで前回書いたような人に言える様な所で生きて来てはいないので、生まれ姓から数えて9回以上も姓を変え、名も変え、法的に変えたり、身分証自体を変えたり、養子に入った先で、養父母たちが協議離婚をする際にその間の「姓」が空白になるのを利用して戸籍を追えない姓を作ったりして、私自身をなくしてすごしてきました。

現在の名前は裁判所（家裁）へ申請をして、ずっと前に取得した名です。前刑の時に怖い系の人たちを、相手のもってたナイフで首を切り、私の母親や子どもたちへ迷惑が行かない様に変えました。

母は建設会社をやっており、実の弟と現在も経営しておる様です。今年に入り、それまで私の引き受けをしてくれていたのですが、会社の事や世論、世間の目、私の子ども達、色んな全てがあり、「やっぱり、あなたの引き受けはできない」と一言ことわりの手紙が来ました。刑務所側から「引き受け取り消しになった」と通知され、母の身に何かあったのかと想い、弁護士の先生へすぐ連絡をしてもらったら、今の所は（色々骨折や何かはあったけど）元気です、と。ただ子ども達や全てを見通して行く上で、私の帰住はのぞまないとの事でした。それでも、産んでくれた母が元気で健在であれば、それで充分だし、私も死刑求刑で判決も極刑としても控訴するつもりはなかったので、それでもどこかに甘い考えが有り、もしかしたら 30 年ちょっとすれば外へ帰れる的な希望を心のどこかでもっていたのと、又母や弟から見捨てられちゃったと想ったら、悲しくて淋しくて「もう絶対涙なんか出ない」と想ってたのに、30 年振りに泣きました。すごく恥ずかしいけど泣けて来ました。散々親代わりの人の指示で複数の命を奪ってしまい、人を大ぜい傷つけてきたくせに、ずっと自分の力だけを頼ってきたくせして、母たちに手を離されたくらいで、本当に心の弱い私です。

6 才から施設に出され、どれだけ辛くてもイジメられて痛くたって、そこから逃げられなかったから、耐えることも己を守ることもおぼえたのに。父が前刑の時にガンで亡くなった時でさえ涙なんて全く出なかったし、まして「産むはずじゃなかった」ってわけわかんないことでなぐってきたりする人だったから。でも亡くなる前に手紙で「オマエのして欲しい事、何もしてやれなくてスマなかった」と！

亡くなる前に本当にズルい一言だし、何より私にとっては残こくな手紙でしたよ。　だって死ぬ程キライだし悔しいけど、誰よりも、父の事も母の事も弟のことも愛おしく大切に想っているから。親を心からキライな子なんてイナイと想います。どれだけ何をされても捨てられても、もし、次に生まれて来れたなら、又父、母、弟、子どもたちと同じ時をすごして生きたいと想う。色々グチの様な手紙になってしまって気分を悪くさせたらゴメンナさい。別にだからって同情なんてもとめてないし、それ以上でも以下でもないんです。だって何度か私に佳代子さんは忙しい中、手紙をわざわざ書いてくれて、そんな人に対して、私が心を開かなければ、素の自分を見てもらわなければ何よりフェアじゃないと想うので。だから変な他意は無いので。本当にゴメンナサイ。

あっ！私は 13 才まで外でウインナーは魚肉のあれがウインナーだって思ってました。(笑) 施設ではソーセージって言うとあれがうすく切られて３つでてくるのが唯一のごちそうで（笑）小さい茶わん１杯のむぎご飯、おみそ汁、たくわん、おしんこ 2〜3 枚、ドンブリの中でまぜたなっとうを、当時 20 人近くで食べるので、スプーン１杯くらい（笑）これにソーセージ付けば、その日は「ごちそうの日！」半年に１度くらいコロッケ半分でたり、時々厚焼き玉子１切と 5cm くらいの目ざしでるくらい。だから中学へ入って中１の時の彼女がお弁当作ってくれた中に指くらいのソーセージ入ってて食べたときはマジでビックリでした（照）「これ何！」って何度も聞き返したくらい！週に１回のおやつも、コップ６分目のカルピスやオレンジジュース、ミルクのどれかとサラダせんべい１コ、プラスチック楊枝に刺さった親ゆびくらいのバームクーヘン！だからその彼女のお母さんがわざわざ私の誕生日にバームクーヘン買ってくれた時は「えっ？何これ…」ってまたまたおばさんに聞いたの（笑）炭酸ジュースなんてそれまで飲んだことなかったから、彼女の家でファンタのんだ時、しゃっくりがとまんなくて大変だったし、本当にイヤしい話ですが、あの頃は１日中お腹へらしてました（照）校庭の「のびる」を友達とミソとかつけてたべたり、ナシを盗んだり、イチジクやクワの実とったり、パン屋のオジちゃんからパンのミミもらってたべてた。(笑)

施設は 18 才までいられて、そこのお姉さんがバイト先の帰り、チョコレート買ってきてくれて、それを大切にお姉さんの誕生日までたべずにとっといて「一緒に食べよう」って言ったとき、私初めて人に抱きしめてもらった。嬉しかったです。親せき中から忌み子といわれて誰も相手にしてくれず、ひどい時なんか食パン一斤で何日も放牧状態の時もあったし（困）だからすごく嬉しかった！あったかかった！

幸せって自分の周りにいっぱいある

のに、便利すぎたり、自分の甘えで見えないだけでたくさんあるのに。私もこうして佳代子さんと手紙を通して話す時間はすごい楽しいし、私の掛けがえのない愛しい時間です。・・・・・・何でも「当たり前」になったらダメだし、何せ「ここの生活」になれてしまったら、それこそ人として終わりって私自身に言い聞かせて、たとえ出れず、外に帰れなくたって、自分の終わる時くらいは「人の型をした何か」じゃなくて、自分以外の全てを大切に想える、少なくとも今以上に愛した人たちを大切に想える自分でいたい。どこへいようとどれだけ理不尽な状況だろうと。「ここは更生の場じゃない」と、確かにそう想う所も多々有るけれど、そう感じる自体、私自身に甘えがあるから、そーゆー不満になってしまうから、なるべく常に自分に目を、気を向ける様にしてるけど、中々「当たり前」の行動はむずかしくて。

今年の３月から切り花を購入し（¥300 で）毎日朝、お水を替えてあげ、花を育てキレイに咲いてくれるのが毎日楽しみです。300 円の生花でも充分幸せになれるし、毎日朝「今日も美人に咲いてくれてありがとう」と言って作業に行くのです。「自分らしく」って、我がままを出すのではなくて、素直な気持ちで何でも見ると、花にも、大好きなパンの時も、何に対しても幸せを今、だいぶ感じれるようになりました。

Sex 雑誌もフォトもいい！それでも家族や内妻、こどもたちをもっともっと抱きしめてあげ、心の中をうんと幸せにしてあげれば、今みたいに小さい幸せをちゃんと感じられて、「親代わりの人の指示で動く殺人者」になってまで「作られた家族でも一緒にいたい」と弱い自分に勝てたと想う。ここは「色のない場所で、人肌のぬくもりもない」けど。Sex より、キレイな言葉より、優しく抱きしめてあげられて、感謝をちゃんと伝えられる自分でいたい。

子どもの頃、どれだけ空腹でも、骨折れるまでなぐられても、神様も仏様も助けてくれなかった。だから、今も神仏を頼り、すがったりしないし、まして、すがれる様な人生を生きてないので、都合のいい時だけの神頼みはしないけど、今こうして佳代子さんとお話出来ている事、感謝しています。

最近は外の鳥を見るのが楽しくて！砂山でスズメが大判焼きの様にスッポリ入ってるし、広い砂山で１羽が寄るとおこるヤツとか、一羽一羽個体差あって、見てるだけで楽しいです！外では気にもしない当たり前の足元の生命やキレイなものをキレイとちゃんと想える心のゆとりと気持ちをこれから先、ずっともてる様にしたいです。そうなれて初めて、自分も人も、心から大切に出来る気がします。死刑から無期へ落ち、生かされて行く中で、又自分の１度捨てた命への欲が、生きている時間が進むほどに又増えて、生きること

にしがみつく自分に時折情けなくなる事もあります。償いとは何かも、自分がどうすれば一番よい「カタチ」なのかも答えは今だに出ません。本当にムダに生きてる気さえしてきます。考える時間だけはたっぷり有るので・・・。自分の命の使い方とは本当にむずかしく想います。

私は死ぬこと以外はかすり傷だし、自分が奪ってしまった命たち、傷つけた人たち、遺族の方達を、その想いを、私自身に当てはめて考えたら、「耐えられない理不尽」なんてないです。佳代子さんも色んなクレームで大変だろうと思うけど、人が笑おうが怒ろうが、心病ますことなく、又申し訳ないと思わずにいてください。

食べる事が出来れば万事が満ち足りて、心が満ち足りれば、心にゆとりがでてルールも守れる。無理な理想なんかより、愛しい人たちと笑顔で過ごせればそれで充分。生きる上でお金はもちろん必要だけど、最低限有って、少しの夢と家族いてくれれば、どんな所でも生きてゆけるって、やっと気づきました。本当に大切な人や、物事は近すぎて中々気づかないし、死ぬまで見つけられるかくらい、むずかしい事ですね。流されず、自分を保って進みます。・・・今日一日生きて、又明日、自分の足で立って進む。この繰り返しで、償うことの全てが出来るかわからないけど、でも進みます。

S刑へと移送されて　アッと言う間にもうすぐ2か月となります。大分慣れてきました。のですが、もうすぐに初めの資格試験があります。CAD 技術者試験 2級の試験です。

S 刑務所は訓練施設ですが、色々な人がいます。全国の刑務所から選ばれて資格を取りに来ている作業免除される職業訓練生と、その他に再犯を防ぐために改善指導という教育を集中的に作業をしながら、3 か月、6 か月、1 年と罪状に合わせて教育を受けるために全国から移送されて来ている人もいます。
再犯防止のための教育がなされていないという人もいますが、ひっそりと少年刑務所や訓練施設で行われています。

今まで拘禁生活を 20 年過ごしてきて私だけでなく周りの人達も決して自分は捕まらないと思って事件を起こしています。根本には自分の事しか考えていないところから、人の命を奪うという思考が生まれてきます。

自己中心的な犯行と、よく裁判長が言いますが、私も裁判中は理解できていませんでしたが、今は身にしみて理解できます。

本当の意味で道徳を知ったのはこの中に入り、神様とであったからです。
社会にいた頃には知りえなかった世界を知ることができました。

子供の番組だろうか、幼稚園の園児に語りかけるように星の先生が喋っている。
―冬はお星さまがきれいだねー　先生も毎晩楽しみ眺めているんだ、でもね、きのう見ていたお星さまが今日はいなくなっているかもしれないんだよ
　精神年齢がほとんど園児に近くなった爺さんは思わず耳をそばだて始めた。

―冬の星座は六つあるの、その中で一等星という明るい星は七つあるの。どうしてだろう、オリオン座には一等星が二つもあるんだよ、青白いリゲル、赤いベテルギウス。この赤い星はとてもお年寄りで、もう死んでいるかもしれないの、今僕たちが見ているのは、５００年前の光りなんだよ、お星さまから地球にとどくのに５００年もかかるんだ。―

　あの星まで００億光年とか、ｘｘ億光年とか、こちらの脳ミソのタイムスケールが役立たない世界ばかりで、いつも頭の外にうっちゃったままに聞き流していたが、５００年という年数は、学校で習った歴史の時間枠に納まる感じに思えてきた。お亡くなりになったのは戦国時代だろうか。あの本能寺が燃えていたころに爆発したベテルギウスの輝きが、今、我が家の庭に降りそそいでいるのかと考え始めると、脳ミソがなんだか感動し揺れ始めた。
　頭が少しずつ動き出したが、それでは、今朝は、いつ頃の太陽の光りで目が覚めたのだろうかと、少し心配になってきた。調べてみると、たった八分で地球にとどくらしい。これは人の時間感覚の誤差範囲内である。地球で見る太陽の光はそのままのリアルな光りなのだ。月の光は一秒でとどくらしい。
　億光年は夢の世界、ベテルギウスは歴史の世界、太陽と月はリアルの世界。

　星の先生がまだ話している。
　星座の名前は、誰がつけたか知っているかい、これはね、夜に寝ずの番をしていた羊飼いさんたちが夜空とお話しをしたくって彼らの知っている名前をつけたらしいよ。動物の名前が多いよね。ギリシャ神話にも関係があるみたい。冬の星座の、おうし座、オリオン座、オオ犬座、馭者座、おとめ座、ふたご座、ウサギ座、みんなそうだね
　思い起こせば、夜空にはいつも満天の星が輝いていた。それに比べ、この頃は高みにあった夜空がどんどん降りてくる。お星さまもますます霞んでゆく。星の先生の語りはとても夢があり、星の世界が身近な存在に感じられるようになってきた。こちらの星座はおとめ座だったはずだ。この歳になると科学の世界もよいが、何故か神話の世界にもどりたくなる。

編集後記

ほんにかえるプロジェクトを設立して5年目となりました。汪楠氏の意気込み、田中会長の優しい眼差し、Sr.井手とカリタス卒業生スタッフの皆様の献身、神父様の援助、中の方々からの励ましに支えられて本を送る活動、講演会、文通を続けてまいりました。これからも良き交わりをお願いいたします。編集後記のカットはK･Tさんです。

8月31日明治大学リバティホールでの「死刑をなくそう市民会議」の集会に参加してきました。死刑制度が残っている国は米国の一部と日本だけ。「2020年までに死刑廃止」を日本弁護士連合会が3年前に宣言。代表世話人の菊田幸一弁護士は死刑を廃止して、終身刑へと、これは永年言い続けておられることです。「たとえ人を殺めた人に対する刑罰であっても、その命を国家が奪ってはならない」のです。もし冤罪の人を死刑にしたら、償いようがありません。ローマ法王の来日に希望をもちつつ。איק

ほんにかえるプロジェクト
会員募集

正会員年会費　(10月～9月)
3000円
寄付もよろしくお願いいたします。

振込先
ゆうちょ銀行 10160－86239211
他行からの場合
ゆうちょ銀行 018支店
(普通)8623921
口座名義　ほんにかえるプロジェクト

ボランティアスタッフ募集
在宅のままできる
パソコン入力者・文通スタッフ

自宅住所は公開しません。プライバシー保護に細心の注意をはらっています。

かえるプロジェクトの
出版物・印刷物

汪楠著「我的童年」	500円
汪楠著「獄中書簡」	500円
絵ハガキ1枚	60円
絵入A5便箋10枚	100円
絵入A5便箋10枚 名前入り	150円

売上金はPJの活動資金になります。

発行所
〒134-0003
東京都江戸川区春江町5-15-31
ほんにかえるプロジェクト事務局
電話　080-8811-5465